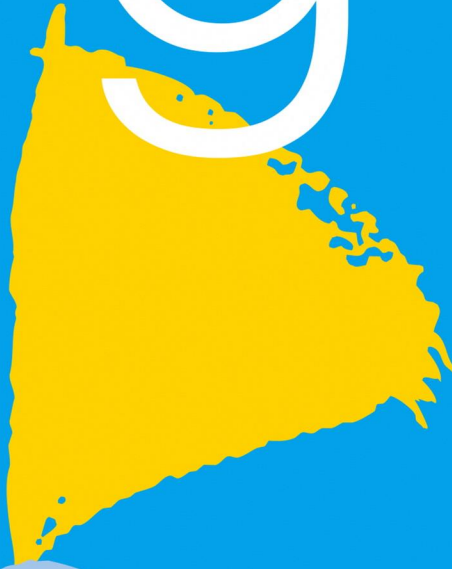


未来へつなぐ 子どもと学ぶ

sign

サイン

No.12

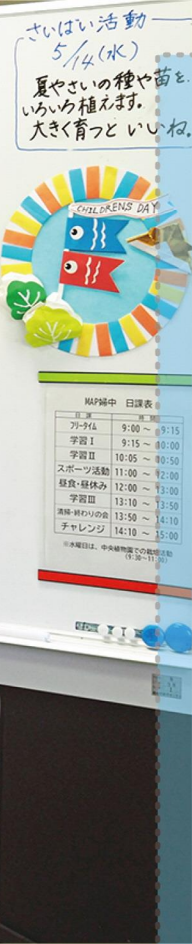


ri

特集

「教室」以外にも、
居場所があることを伝える。

地域の学校以外にも、「居場所」があります。



「家から出るのが怖い…」という子も、
 ちょっとだけ勇気を出して外に出てみよう。
 自然にふれ合ったり、仲間とおしゃべりしたりすることで
 心が元になります。

MAP (適応指導教室)

MAP婦中 MAP婦中 教育指導員 笹原さん、竹内さん、村井さん (左から)
 富山市婦中町砂子田 1-1
 TEL 076-466-4288

Sign7月号では、
 富山市で取り組んでいる
 不登校支援事業の一部、
 そして今後の取り組みに
 ついて紹介します。

新たな学びの選択肢

学校に行きづらいと悩む日々。「自分のペースだと、勉強についていけなくなるかも」「学びたいけど、今の学校に登校するのは難しい」。このような不安を感じたことはないでしょうか。

富山市では、そういった気持ちに寄り添い、学校に行きづらいと悩んでいる子どもたちが、「地域の学校以外の場所でも、自分のペースで、安心して学べる」新しい学びの場を創ることにしました。それが「学びの多様化学校」です。

令和8年4月に大広田小学校との統合により閉校する浜黒崎小学校の校舎を使って、小中一貫校として開校する予定で、現在は、開校に向けて準備を進めているところです。



学びの多様化学校

令和8年
 4月開校予定



「学びの多様化学校とは」
 不登校の児童生徒が自分のペースで学べる新しい形の学校です。
 国で決められた計画に基づく授業（教育課程）を受けることとなりますが、通常の学校よりも授業の組み立てに自由度があります。
 令和7年4月現在、全国に58校設置されています。

自分のペースでやりたいことを

MAPでは、学校に行きづらいつらいつら感じている子が学習や読書、スポーツなど、やりたいことを自分で決めて活動しています。中学生が低学年の子にバドミントンのシャトルの打ち方を優しく教えたり、歴史が得意な小学3年生が6年生にクイズを出したりするなど、学校や学年が違っていてもみんなで楽しく交流しています。中でも人気の活動が、毎週水曜日に行う植物園での畑ごと！畑で土にふれたり、野菜を植えたりすると、心がほかほかして元気になります。

教室以外の居場所

朝、登校はしてみたものの、教室に入るのが怖い。そんな気持ちになることってありますよね。でもまずは、学校へ行ったのはすごいこと！

教室に入れないからといって、学校に行くことを諦める必要はありません。「校内サポートルーム」では、自分のペースで勉強したり、本を読んだり、ちょっとした運動をしてみたり、やってみたくいことを自分で選んで、安心して過ごすことができます。

実際に利用した仲間たちの中には、自分で今日やることを考えることで、学習やいろいろな活動に取り組むようになった子がいます。
 また、クラスの仲間が、校内サポートルームに遊びに来てくれたことがきっかけで、少しずつ教室に戻ることができたなんて子もいます。
 さあ、もう一歩踏み出して校内サポートルームに行ってみましょう。



自然の中で自分らしさを見つける

学校に行きづらさを感じ、学校を休む時、どこで何をして過ごしますか？家で勉強やゲーム、家族と買い物…。その選択肢の中に、富山市子ども村「自然体験」を加えてみてください。森の中を散歩したり、野菜を育てたり、自然の中でのびのびと自分のやってみたい活動を自分のペースで進めることができます。

今年第1回は5月15日に開催されました。当日は職員の皆さんの笑顔いっぱいのお出迎えでスタートしました。
 今回の自然体験では、参加したみんなの希望により、野菜の苗植えや火おこし、森林散策を行いました。

苗植えでは、ポットから苗をスムーズに出す子や、丁寧に土をかぶせている子など、それぞれの「得意」がたくさん見られました。

火おこしは、煙がなかなか上がらず苦戦しましたが、2人1組のペアで協力して火がついた時はみんなで大喜び！みんな楽しんでお話ししながら活動するうちに、いろいろな子と仲よくなれるのもこの自然体験の魅力の一つです。

学校に行きづらくなったら、自然の中に出かけてみませんか？自分の「やってみたい」や「できた！」が見つかるかもしれません。

自然体験



学校を 安心の居場所に！



(Q)子どもの頃の夢:

(A) CA(当時はスチュワーデスと言っていました)になって、世界中に行きたい!とっていました。幼稚園で出会ったイタリア人の神父さんやシスターの影響からか、未知の世界への好奇心でいっぱいでした。

石動 瑞代

富山市教育委員
富山短期大学幼児教育学科教授

～乳幼児期に必要なこと～

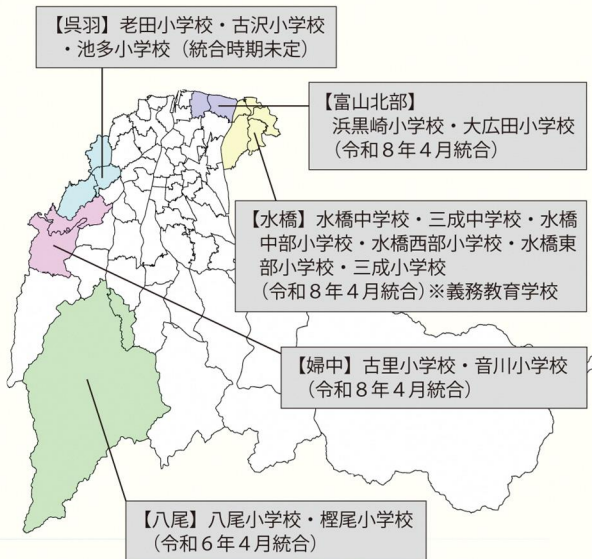
私たちは新しい環境に順応する際、不安や緊張を感じます。小学校に入学した子どもたちも、新しい先生や友達との関係、生活リズムに戸惑いを感じたことでしょう。新しい環境が安心できる場所になる過程では、乳幼児期に育まれた「人や場、自分に対する安心感」が支えとなります。子どもが様々なストレス場面を乗り越えるには、大きなエネルギーが必要であり、その源が心に蓄えた安心感なのです。

就学前の子どもたちは、家庭で得られる安心感に加え、自由な遊びを通して安心感を高めます。遊びは、内容や場所、方法等を自分で選び、工夫する過程で満足感や自信をもたらします。また、遊びではルールや制限を守り他者に配慮することが必要なため、葛藤や挫折を経験することにもなります。しかし、そうした困難を乗り越え、楽しさや充実感を味わう体験を重ねることで、立ち直る力を身に付けていきます。遊びを通してこそ、自分の感情を適切に表現・コントロールする力が獲得され、集団の中での安心感が育まれるのです。

もちろん安心感やそれを支える力には個人差があります。大人は、子どもの心揺らぐ時を見逃さず、しっかりと受け止め、寄り添う存在でありたいものです。

学校再編新聞

地域協議会が7校区で設置



富山市では、令和4年に策定した市立小・中学校再編計画に基づき、地域や保護者と対話しながら、再編・統合に取り組んでいる。市教育委員会によると、これまで、榎尾・浜黒崎・音川・古沢・池多・老田・古里の計7小学校区で、学校の将来のあり方を考える協議会が設立された。

このあり方協議会は、自治振興会やPTA等によって構成されており、講演会や学校見学会を開催しながら、再編の方向性を話し合う。その後、再編の方向性が「統合」と決まれば、想定される統合先校区と合同で、統合検討協議会を新たに立ち上げ、統合日や通学手段等を議論する。市教育委員会担当者は、「協議会設立に至った経緯は、主に児童数の減少が要因であるが、いずれの協議会でも子どもファーストの精神で議論されており、市としても地域の思いを尊重し、引き続き支援したい。」と話した。

「子どもファースト」の精神で



◀ YouTube やってます!

signへのご意見・ご感想はこちらからお願いいたします

